

児童虐待・児童の権利について

大野 栄光



【質問】「先生、どうにか

できませんか」。10歳の少女は担任に父親の暴力からの救いを求めた。そんな少女の願いもむなしく、幼い命は守られることなく途絶えてしまった。

「秘密は守ります」というアンケートに「途な願いを込めて一生懸命に訴えた少女は、毎日を耐え忍び、希望の灯を頼りに心のうちを打ち明けたと思う。

しかし、亡くなった後の少女の胃の中には食べ物が入っていなかったという。

子どもの幸せの権利は本当に守られているのか、この件について教育長の見解を伺う。

【答弁】【教育長】このような悲惨な虐待事件が後を絶たず発生していることは非常に残念でならない。

本市においても、このような事件が発生しないよう、引き続き児童・生徒の生命の安全を第一に、関係機関との連携を密にし、児童虐待防止に努めていく。

【質問】保護者が児童に対して懲戒権をかざし、「しつけ」として暴力行為を行う場合がある。本市において、子どもがそのような親の暴力を受けている事例が起った場合、対応はどのようなになっているのか伺う。

【答弁】【教育長】野田市において発生した女子児童死亡の事案を受け、内閣府、文部科学省、厚生労働省の要請で、児

童虐待が疑われる事案に係る緊急点検を、本市も含め全国一斉に学校を初めとした関係機関が実施している。

今回発生したような事案の再発防止に、本市としても緊急に点検を取り組んでいるところである。

なお、今回の緊急点検において、本市の学校から児童虐待のおそれのあるとした事案は報告されていない。

また、学校における児童虐待防止の取り組みの再点検や児童・生徒の安全確認について適切な対応を図るよう、白石市校長会、教頭会を通じて周知するとともに、これまで以上に関係機関との連携を密にし、児童虐待防止に努めていく。

【その他の質問】

◎新元号移行について

◎水力発電について

◎自主財源について

施政方針について

佐藤 秀行



【質問】目指すべき教育の

姿として、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスのとれた児童・生徒を育てることが重要であると考えているが、市長の見解を伺う。

【答弁】【市長】平成31年度を教育改革元年と位置づけ、学力向上を大きな柱としているが、同様に豊かな心を育むことや健やかな体の育成も、これまでと変わりなく取り組んでいく。

【質問】幼稚園や小・中学校での生活介助や学習支援を行うための「特別支援教育支援員」の必要性について、また、支援員を学校の実情、要望に応じた継続配置や適正配置、さらに増

やしていくことも必要であると考えているが、市長の見解を伺う。

【答弁】【市長】担任等の指導の補助を基本的な役割とする特別支援教育支援員の必要性については理解している。

特別支援教育支援員の配置については、学校の実情に応じ、現場の声を聞きながら、配置の必要度の高い学校に対し、予算の範囲内で適正に配置していると認識している。

【質問】オーストラリアとの姉妹都市交流については、生徒の国際的な視野の拡大等のためにも、ぜひ続けてほしい事業の一つである。

【答弁】【市長】青少年の国際感覚醸成、そのため海外での研修は、中学

生にとって非常に有意義な事業である。今後、慎重に判断しなければならぬが、総合的にさまざまな角度から検討していく。

◎エアコン設置について

【質問】エアコンについては、普通教室だけでなく特別教室についても設置が望まれる。

特別教室への設置も検討するということがあるが、どのように考えているのか。

また、各小・中学校にどれくらいの設置を見込んでいるのか伺う。

【答弁】【教育長】基本は全ての学校の普通教室に設置するものであるが、学校の事情を聞いて、特別教室の設置も検討しているところである。

現時点においては、各小・中学校の合計で、普通教室116室、特別教室37室、計153室を見込んでいく。